

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670800281
法人名	医療法人社団 明寿会
事業所名	グループホーム あっとほ～む砺波
所在地	砺波市鷹栖1973-1
自己評価作成日	令和3年10月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は散居村に位置し、水田や山々が眺望できるのどかな環境である。皆が集うホールはガラス張りになっており、開放的な空間となっている。コロナ禍で外出の機会は減っているものの、玄関に面した駐車場には花壇を設け、散歩やひなたぼっこ等、気分転換を図ることが出来る。ドライブや壁面での作品作り、食事面では、おはぎやうなぎ等を提供し季節を感じてもらっている。利用者の個々の状態に応じたケアができる様に情報システムを導入し、ケア記録、業務連絡の情報を共有し、利用者が安心して暮らしていけるように日々支援している。新型コロナウイルス感染症防止のため、1日2回の消毒、手洗いの実施、職員、入居者の体調管理の徹底を図っている。家族の面会は現在中止していただいているが、窓越しの面会、オンライン、電話で交流ができるよう体制作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員間のチームワークが取れており、上司に相談しやすい雰囲気や体制が整えられている。事業所間のことは電子媒体の整備により業務に関する事、利用者一人ひとりに関する事等の情報共有が図られている。個別ケアを重視し「課題整理総括表」を活用することで利用者の些細な状態変化にも気付き、一人ひとりを把握した介護計画が立てられ実践されている。また、家族から事業所に対するアンケート、面会時に要望を聞く等信頼関係の構築に努めている。更に事業所内で11の委員会を立ち上げ、全職員が配属し、自らアンケートの実施や勉強会の開催などを企画し、職員の質の向上を目指している。室内は共用空間に陽が差し込み明るく、利用者が各々休憩したり小物作りをしたり好きなように過ごせている。災害時の救助応援、プランターの花植えや地蔵祭りへの招待、文化祭への作品出品など日頃から交流が図られ地域との結び付きが強いのが特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに年度初めには、年間目標を立て法人理念と年間目標を掲示し、実践に努めている。今年度の目標は「こまかい事でも口に出して報告 なくそう連絡ミス 人対人の思いやりを持ち みんなで対策しよう」である。	「個別ケア」「町の中での暮らし」「ケアサービスの向上」という法人全体の運営理念を基に、事業所独自の目標を職員全員で話し合い、掲示し共有している。目標は1年ごとに評価し、新たな目標を掲げ実践出来るようにしている。	職員全員で決めた事業所目標を定期的に振り返り、実践に結び付いているかを検討する機会を設けることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加入し回覧版にて地域の情報を共有している。コロナ禍にて地域の行事は開催できていない状況であるが、年2回地域の方のプランターの花植えを見学したり、文化祭の作品出品を行ったりしている。	地域の方が春と秋に季節の花苗をプランターに植えに来所し、職員と一緒に水やりをしている。また、地区の文化祭に展示物を出品したり利用者が折り紙で作った置物を文化祭に来られた地域の方々へ配布したりするなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に広報を発行し、回覧板にて事業所の取り組みや認知症、高齢者の医療について情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、会議開催は見送っている状況であるが、各棟の玄関にて議事録を掲示し、閲覧できるようにしている。	運営推進会議の議事録には、事業所の活動状況や活動報告、感染症対策(新型コロナ)等の内容が記載されている。議事録は玄関先に置き、いつでも閲覧できるようにしている。	運営推進会議の開催において、事業所状況や取組など、報告・話し合いが双方向で行えるような取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため、運営推進会議の開催や相談員の訪問は見送っているが、地域ケア会議には参加しており、意見交換を図っている。	日頃から疑問に思うことや分からないことがあれば市町村担当者に電話をしてアドバイスを受けている。また、月1回の地域ケア会議に参加して情報の収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針のもと、利用者支援に取り組んでいる。また法人全体の身体拘束委員会の参加、勉強会を開催するなど学びを深め、拘束をしない実践に活かすよう努めている。「フィジカルロック」「ドラッグロック」特に「スピーチロック」の防止に力を入れている。タイムカードの入力時にスローガンを表示するシステムを導入したり、事業所や職員トイレにスピーチロックの具体例を掲示し意識づけをしている。	身体拘束委員会が中心となり、年間計画の中に勉強会を組み入れ、全職員で学びを深めている。また、「スピーチロック」に重点を置き、一覧表を職員トイレの壁に貼り、1人ひとりが身体拘束をしないケアの意識化が図れるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催したり、法人内のメールで虐待関連の資料を閲覧したり虐待防止の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に参加し、理解を深め必要時に関係者と話し合うことができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、変更時には、その都度対応している。また家族が納得、理解できるよう努め不明点があればすぐに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また年に1回家族アンケートを実施している。内容は職員の対応について、利用者について、施設について等で、結果とその対応策をまとめたものを家族に郵送している。面会、電話連絡時にも意見の把握に努めている。把握した意見などは社内メール、ミーティング、業務日誌等で情報を共有している。	年に一度家族アンケートを取り、事業所に対する様々な意見を聞くようにしている。アンケート結果は集計後、指摘内容についての報告を記載して「事業所だより」に載せている。それ以外にも窓越し面会や電話をかけた際にも要望などを聞き、職員間で情報共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや法人内のメールを活用し、情報の共有や意見、提案ができるようにしている。またアンケートや職員の面談にて意見が言える場がある。それに加え、法人メールにて直接上司に相談できるシステムを導入しており、提案や相談がしやすい環境を整えている。	月に1回のミーティングの前に職員に課題を書き出す用紙を渡し、予め内容を把握しスムーズに話し合いが行えるように工夫している。また社内メールを活用することで要望や意見が上司に伝えやすくなっており日常的に意見が言いやすい体制作りができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を管理者が把握し、必要時管理者が上司に報告できる体制が整っている。年適時に個々に面接を行い、職員の努力や実績が反映される評価方法を用いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に応じた内部、外部の研修を斡旋している。また月1勉強会を開催し知識を深める機会を設けている。法人からも研修費用の補助があり、研修が受けやすい体制を整えている。職員の力量、立場も踏まえて法人内外の研修を受けたり、日々のケアの中でその都度伝えながら身につけてもらえるよう指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他同業者と交流する機会は減っているが、地域ケア会議などに参加し情報交換したり知識の向上に努めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を利用し家族からの情報をもとに本人とのコミュニケーションを図り安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族からの要望や介護に対する意向を聞き取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に利用者、家族の意向、状況を考慮し個別のサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る家事や生活の全般を役割を持って互いに助け合いながら過ごしてもらえよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の受診付き添いや処方箋の受け取りは家族にお願いしている。コロナ禍において、帰省、外出はできないが、窓越し面会やオンライン面会にて本人家族とのコミュニケーションの機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて地域行事への参加や帰宅支援はできていない。家族や親戚と電話や窓越し面会、オンライン面会を行い関係が途切れないように支援している。	家族や親せきとはタブレットでオンライン面会を実施したり、窓越し面会を行い馴染みの関係が途切れないよう努めている。現在は馴染みの美容院へも行けていない状況のため、訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の共同作業、レクリエーション、おやつ時のコミュニケーションを通じて利用者同士の交流を深めている。利用者同士が円滑に交流できるよう声掛け、環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談、要望があれば応じる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族に依頼し、本人の生活歴や好きな事、得意な事、したいこと等をシートに記入してもらっている。入居後も本人との日々の会話や様子、家族面会時に本人の思いや意向の把握に努めている。入居の際にセンター方式を記入してもらい、その情報をもとに暫定の介護計画を立てている。24時間シートを活用し生活パターンを把握し、それを反映させた介護計画を作成している。	本人の思いや意向については日々の生活の中で聞いたことを大切に、また、家族の意向は面会時等に確認をして介護計画に結び付けている。センター方式を導入することで利用者個々の思いを把握するよう努め、システムで全職員が情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には利用者や家族に生活歴やなじみの暮らし方など、情報収集を行い、これからの生活に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後、センター方式を活用し、生活リズムなどを把握するよう努める。また、日々の利用者の状態を日誌に記録し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に見合った本人の状態を把握し、思いや要望を介護計画に反映するように努めている。基本的に3か月ごとに行われるカンファレンス時に話し合い、計画の見直しを実施している。また必要時には適宜、話し合いの場を設けている。担当者が課題整理総括表を記入し介護計画の実践状況や課題などを明確にし、その内容を家族に説明して家族の意向を確認している。それを踏まえてカンファレンスを行い介護計画を作成している。	課題整理総括表を使用し、職員が担当の利用者の状態に即した介護計画を作成している。3か月ごとにカンファレンスを行い見直しを行っているが、状態変化が見られた場合は1か月ごとに個別に話し合いの場を設けている。また、家族にも説明を行い本人がより良く生活できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、内容などは業務日誌に記録しており、法人内のメールなどを用い、職員間で情報を共有し、ケアの実践に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれたニーズに対し、法人内の他部署との連携や協力機関に相談したり対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の現在、地域資源の活用が困難なこともあるが、地域の消防、往診やかかりつけ医、病院との連携体制の構築に努め、できる範囲での対応を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診時には家族が付き添っているが受診時には文書で情報を提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診してもらいその際に「医療情報提供書」に状況を記入し、医療連携がスムーズになるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を希望される場合は、今まで通り家族同行のもと受診してもらっている。その際は、「医療情報提供書」に本人の状態を記入し家族に渡している。医師からの返信はシステムに入れて職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護で月2回看護師に状態、様子を診てもらっている。緊急時、状態変化があった時も指示を仰ぎ、家族に受診依頼する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族との連絡を密に取り、情報交換や相談に応じている。入院時は地域連携室や病院相談員と連携を図っている。また、情報提供書を作成し退居に至る経緯や日々の生活状況などを伝え、情報交換を行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、事業所での対応について説明している。現在まで実績はなく重度化した場合は、かかりつけ医や家族と現状について話し合い、今後についての相談、対応を行っている。	重度化した場合は、本人や家族と今後のことについてその都度話し合いをしているが、現在のところまだ看取りの実例はない。今後、家族の強い要望があれば、主治医とも連携を図りながら事業所の方針を決めていく方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを策定し、常に目の届く場所に掲示している。職員には2年に一度普通救命講習の参加を義務付けており、実践力を身につけ対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施し、内1回は自主訓練を行っている。また事業所内の倉庫に水と食料の備蓄を3日分準備している。	夜間想定避難訓練を実施して職員が少ないなかで利用者が安全に避難できるよう訓練を行っている。防災マニュアルが整備され、避難場所、緊急連絡網の把握や地域の協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本ルールである「職員心得」に人格の尊重やプライバシー保護に関する項目が記されており、職員はルールを基本に一人ひとりを大切に声かけ、対応を心がけている。新入職員が入職する時には「職員心得」を説明している。また、内容が更新された時にはその都度職員に説明しており、利用者の人格尊重を考えた支援となるように心がけている。	法人全体で定められている「職員心得」に利用者の人権の尊重やプライバシー確保についての記載があり、意識付けを図っている。「職員心得」は入社時に配布され、内容が更新された場合は、職員に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思いや希望を自由に言える環境作りに努めると共に、本人が自己決定を行えるような声かけ、信頼関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の一定の流れはあるが、その中でも一人ひとりのペースを大切に支援を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好む服や髪型などおしゃれができるように声かけ、支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外部の栄養士が献立を立てているが毎日検食や利用者の意見、感想を報告し情報を共有している。片付けなど利用者ができる範囲で行っている。副食はクックチル方式を導入している。事業所で採れた野菜を食材に取り入れてもらうなどして、楽しみをもっていたけようにしている。また、利用者の誕生日や季節の行事等では好みを聞き提供できるようにしている。	ご飯と味噌汁は事業所で作り、それ以外はクックチル方式で調理している。家族や近所から頂いたサツマイモで大学芋を作って食べたり、おはぎを買ってくるなどおやつを通して季節感を味わえるよう工夫している。また、利用者にはお茶くみやテーブル拭きなどのできることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや嚥下状態、体調に合わせ量や形態を調整し提供している。また日々の食事量や水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入床、起床時の義歯洗浄や装着、歯磨きの援助や声かけを一人ひとりの状態に合わせて毎食後、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの情報を共有し本人の表情や様子を汲み取り声がけ、誘導を行っている。一人ひとりに合った排泄支援ができるようにしている。利用者一人ひとりの排泄記録を見て声がけや誘導を行っている。	各利用者の排泄状況や水分補給などシステム内に入れて職員間で共有し、トイレでの排泄に向け声掛けを行っている。利用者個人の排泄状況を把握することで誘導のタイミングをつかむことができるため、失禁を防止し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳や乳酸菌飲料、ヨーグルトなど利用者に応じた飲料を提供している。また棟内の散歩や運動、水分を多めに摂ってもらうよう声がけして自力による排便を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上を基本にしているが、個々の要望に応じた入浴日の変更など柔軟に対応している。季節に応じたお風呂(ゆず風呂)や入浴剤を活用し、入浴時間が楽しみとなるように工夫している。	入浴は週2回実施し、利用者の希望に応じ柔軟に対応している。また、拒否される場合には、職員を交代したり時間をおいたりして対応している。浴槽には入浴剤以外に柚子を浮かべるなど入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースや希望に合わせて適度な活動時間と休息時間を確保している。生活リズムを整え安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の確認と薬の変更時には本人の状態を観察し情報を共有できるよう日誌にあげ、必要に応じて医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクを通じて利用者が好きなこと、出来ることを役割として取り組めるようにしている。また誕生日や行事など特別な日には嗜好品を準備する等、工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、地域の行事などは参加できないが棟外での外気浴や車からの花見、ドライブ等、外出支援に努めている。行事委員会が年間行事計画を作成し、それに基づいて外出支援を行っている。季節を感じられる行事を行い利用者楽しんでいただけるよう努めている。	天気の良い日には日頃から事業所の周りを散歩している。近くにお地藏さんがあったり、のどかな田園地帯で良い散歩コースとなっている。また、年間計画として企画した花見やドライブにも出かけ外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持していないが、お金をどうしても所持したい方には本人、家族にリスクを説明したうえで管理してもらっている。欲しいもの、必要な物は家族に電話して持ってきていただくかホームの買い物時、立替にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があったときは電話が、できるように支援している。子供やお孫さんからの手紙や電話があったり、コロナ禍からオンラインでの会話のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を利用者と共に作成し季節感を感じてもらう。毎年グリーンカーテンを作り、夏の日差しを和らげたりテレビの音量、外の景色など不快や混乱を招かないように配慮している。共同空間ではテレビの音や話をする声など音にも配慮し、居心地よく過ごせるように努めている。また季節に応じた壁面を作成したり行事の写真を貼るなどして利用者の記憶を呼び起こす工夫もしている。	共用空間は日差しが入り明るく綺麗に掃除されている。季節の壁飾りや地域の文化祭に出品した作品などが所々に飾られいつでも眺められるようになっている。また、畳の間やソファがありいつでも休憩できるよう配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテレビ前のソファ、食卓の座席の配慮など利用者同士が思い思いに心地よく過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや洗面所は備え付けとなっている。それ以外のものは本人が使い慣れた馴染みの家具や昔の写真など持ち込んでもらい居心地がよく過ごしやすい環境づくりに努めている。	居室内は、タンスや家族の写真、本人の好みのフラワーソープなどが飾られ使いやすいように配置されている。また、入り口には手作り作品が表札のように飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーなため、車いすや歩行器を利用していても自立した生活を送れるように配慮している。		

2 目標達成計画

事業所名 あっとほ～む砺波

作成日： 令和 3 年 12 月 2 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全員で決めた事業所目標を定期的に振り返り、実践に結び付いているかを検討する機会が少ない。	次年度からは、3ヶ月に一度、事業所目標の進捗状況の確認や振り返る時間を設ける。	3ヶ月に一度、ミーティング時に目標について話し合いの時間を設け、定期的に進捗状況を確認する。	12ヶ月
2	4	運営推進会議の開催において、事業所状況や取り組みなど、報告・話し合いが双方向で行えるような取り組みが少ない。	事前に各関係者へ連絡を行い、報告、相談をさせていただき、運営推進会議に反映させる。	運営推進会議前には自治会長や民生委員、市町村職員等に連絡を行い、報告、相談等を行う。運営推進会議議事録に関しては、広報にて配布し周知していただく。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。